

# 躍進 京滋の中小企業

**大** 気や河川、工場排煙などに含まれる窒素酸化物やCOD(化学的酸素要求量)などの環境計測装置を製造販売している。川勝依子社長(51)は「メンテナンス性が良く、頑丈で壊れない耐久性が強み」という。

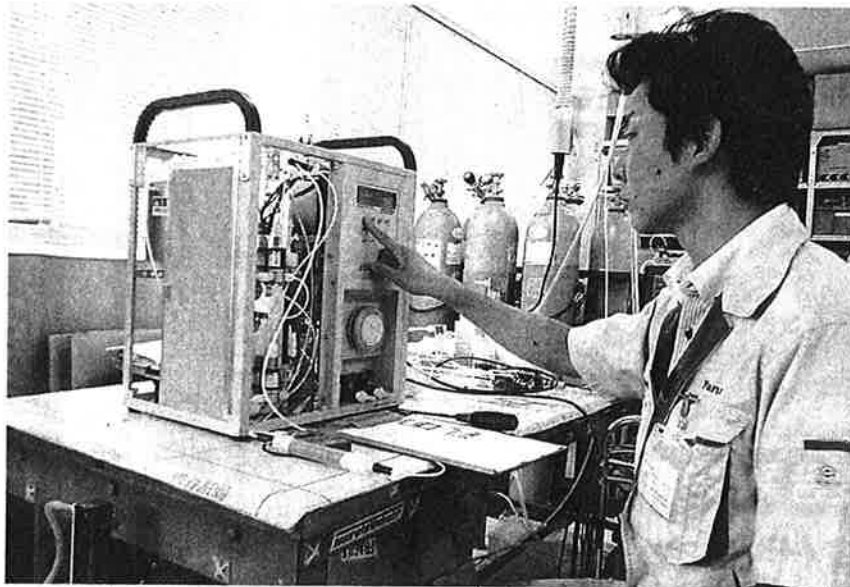
水質測定装置は、ポンプの減圧で必要な試料水を計量管に吸引し、余分な試料水は加圧して水槽に戻す。配管にバルブなどの機構がない分、壊れにくい。配管内に試料が残らないこともあり、保守点検を省略できるという。ガス測定装置をはじめ、測定手法や装置の構造面を精査して精度向上に努めている。

製品は、開発設計した部品の生産を協力会社に委託。各種装置を半製品として受け取り、配管の接続、成分検出器の組み立て、全品検査を行う。従業員はグループで約50人の中小企業とはいえ、兵庫県佐用町の大型放射光施設「スプリング8」をはじめ、電力会社や大手の電機メーカー、製紙会社などに採用されている。

昨年9月、京都高度技術研究

## アナテック・ヤナコ

(京都市伏見区)



可搬型の窒素酸化物計測器を定期検査する従業員(京都市伏見区)

所(下京区)から、成長が期待される「オスカー認定」企業に選ばれた。顧客の生産拠点を海外に移転を受け、3月には中国・北京市で子会社を設立し、納入先での環境計測機器の保守点検

タイ、ベトナムなど東南アジア地域でも、日系企業の新設工場など向けに商談や受注が増え、保守点検などを行う代理店づくりを検討しているという。

**生** 産拠点の海外移転などに伴って日本国内の水質計測市場は縮小が予想されている。新分野への事業展開を模索する中、薬品濃度を一定に保つ装置を生産ライン向けに試作中で、川勝社長は「今まで培ったノウハウを使えるということが武器になる」としている。

(矢ヶ村尚幸)



工場排水向けのCOD自動測定装置

# 環境計測 耐久性が強み

1892年、実験、医学用ガラス器具販売の柳本商店として創業。1919年に柳本製作所に改称し、分析機器などを製造。85年に環境計測

メモ

部門がアナテック・ヤナコとして独立した。2012年3月期の連結売上高は約10億円。京都市伏見区下烏羽平塚町。